



加古川市DX人材育成推進計画



令和6年1月

加古川市

1 策定にあたって

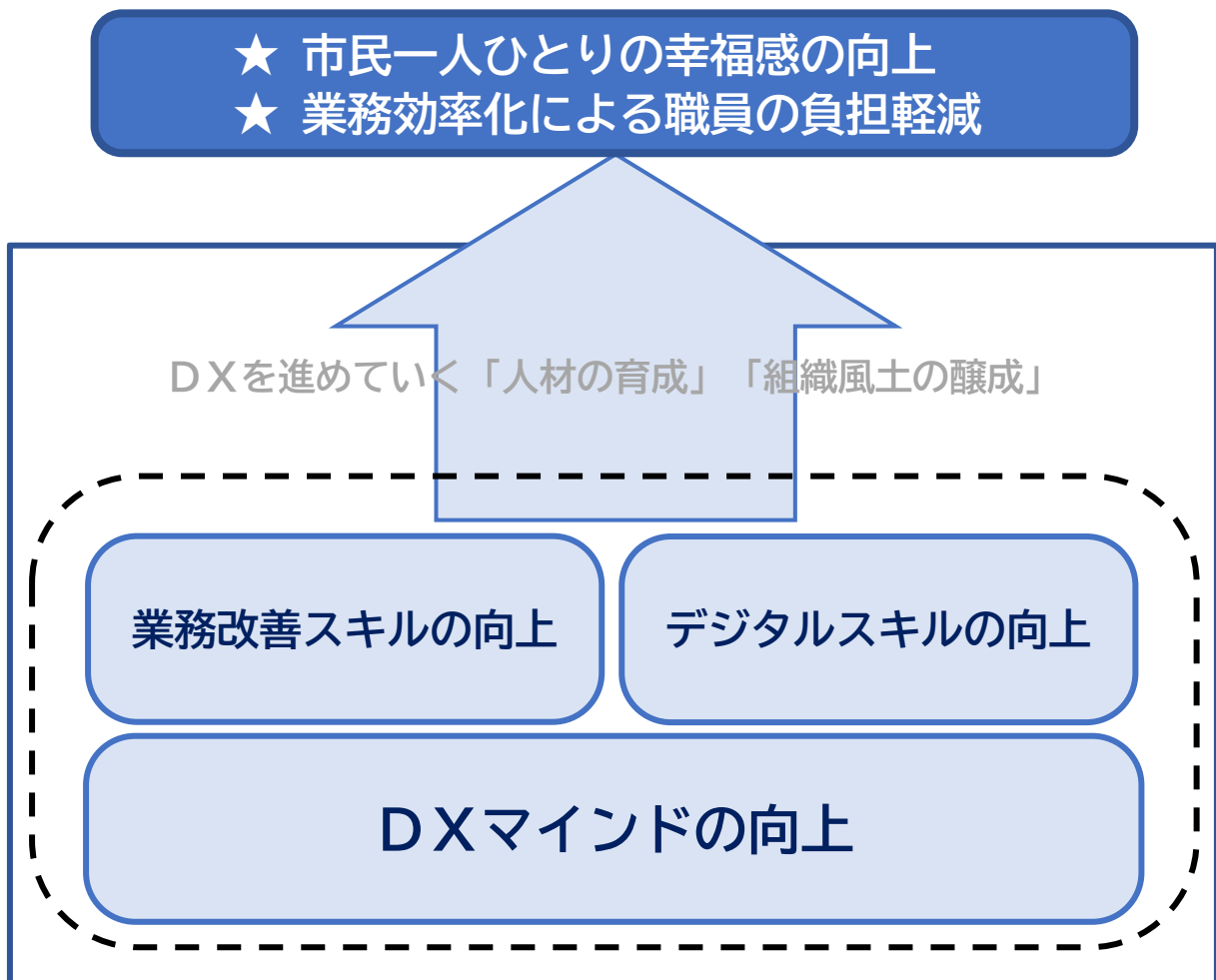
少子高齢化や総人口の減少、住民ニーズの多様化・複雑化など自治体を取り巻く社会情勢が変化する中、地方自治体においては、デジタル技術やデータを活用した業務の自動化・省力化による行政サービスの提供体制を新たに構築することが喫緊の課題となっています。

本市においても、業務効率化と更なる行政サービスの向上を実現するためには、すべての職員がDXの重要性を認識し、それぞれの立場や役割に応じて、デジタル技術やデータを活用できるようになる必要があります。

本推進計画では、このような背景を踏まえ、本市が求めるDX人材の役割やスキルを明確にするとともに、DX人材の考え方や取組等について計画を示します。

2 目的

行政サービスを業務フローから見直し、デジタル技術やデータを活用して、「市民一人ひとりの幸福度の向上」と「業務効率化による職員の負担軽減」を目指す「DX人材」を育成します。



- DXマインドの向上…DXに取り組むことのメリットやDXによりできることを正しく理解し、積極的に取り組もうとする意識の向上を図ります。
- 業務改善スキルの向上…業務フロー図などを活用して、現状の「ムリ」や「ムダ」(伸びしろ)を発見し、解決していく力の向上を図ります。
- デジタルスキルの向上…効率的な業務遂行のため、組織全体の基礎的なデジタルスキルの向上と併せて、個々の能力に応じたデジタルスキルの更なる向上を図ります。

ただ闇雲に、業務改善手法やデジタルスキルだけを学んでもDXは進みません。また、目的もなくデジタルスキルだけを向上させることは困難を極めます。

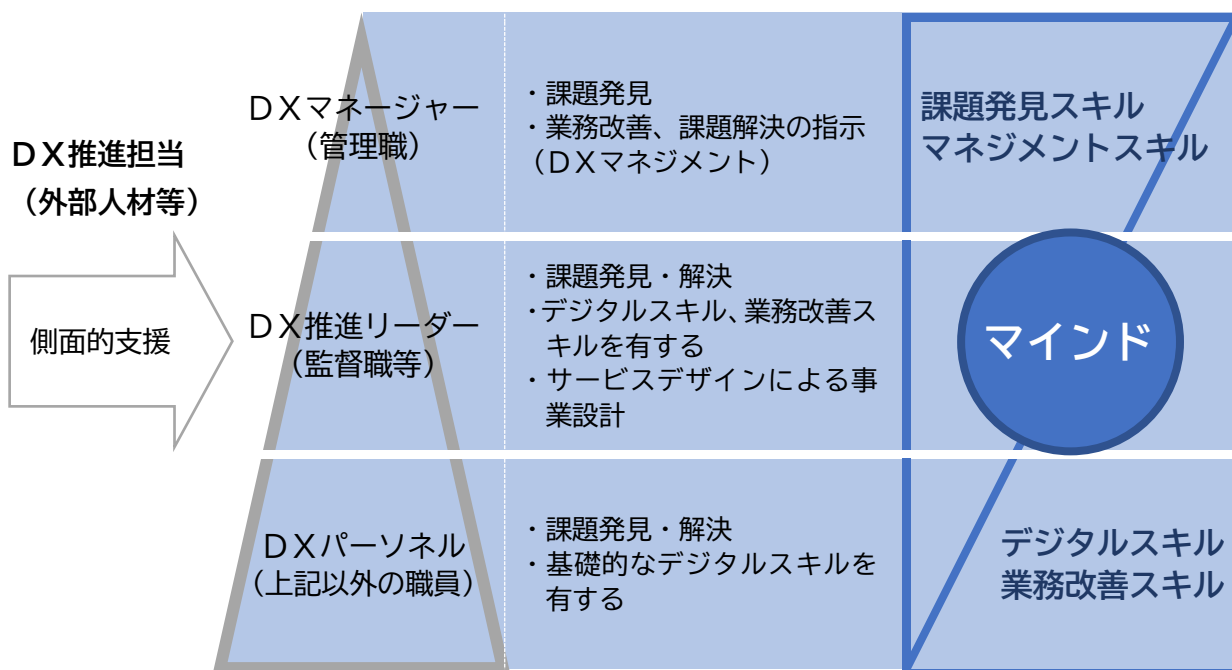
課題を発見し、その解決が自身にとっても組織にとっても良い結果に繋がることが理解できれば、自然とやる気をもって業務改善に取り組めると考えています。

そのためにも、まずは、DXを正しく知り、DXに取り組む必要性を認識し、その成果が「市民」と「職員」の双方にプラスとなるということへの理解(DXマインド)を核とし、それを実践していくための業務改善スキルやデジタルスキルの向上を図ります。

3 DX人材の区分と役割

DX人材については、3つに区分します。

それぞれの区分における役割(役職)やスキルについては以下のとおりです。



4 取組方針

令和6年度から令和8年度までの3年間で重点的にDX人材の育成に取り組みます。

特別研修においてはDXマネージャー及びDX推進リーダーを対象に「自治体DX推進研修」を実施し、DXの必要性を浸透させます。

また、階層別研修において実施している「課題解決」にかかる講座を引き続き実施し、業務改善スキルの向上を目指すとともに、研修の成果を「職員提案制度」と連携させ、ボトムアップによる政策提案の気運を醸成します。

デジタルスキルの向上については、全職員を対象に、eラーニング等を活用した学習を推奨し、特に若手職員に対しては、集合研修としてパソコン研修を実施します。

その他、全職員にデジタルリテラシーの醸成を促すため、「ITパスポート試験」の受験を推奨し、資格取得助成制度により資格取得を支援します。

	階層別研修 等	特別研修・派遣研修	eラーニング 等
DXマネージャー (管理職)	○情報セキュリティ	【特別研修】 ●自治体DX推進研修	【eラーニング】 ●自治体DX ●BPR ○プロジェクト管理 ○データ利活用 ○ICTの知識 ○AI-OCR ○デジタルリテラシー ○情報セキュリティ ○個人情報保護
DX推進リーダー (監督職)	●課題解決 ○情報セキュリティ	【派遣研修】 ○行政のデジタル化 ○ICTによる情報政策 ○データ分析・利活用 ○パソコン研修 ●自治体DX推進	
DXパーソン (主査)	○情報セキュリティ	●DX推進リーダーの育成 ●DX人材の育成・確保 ほか	【資格取得支援】 ○ITパスポート 資格取得支援 (資格取得助成制度)
DXパーソン (主事・技師等)	●課題解決 ●政策提案 (職員提案制度)		
DXパーソン (書記・技手等)	●課題解決		
DXパーソン (事務員・技術員等)	○word研修 ○excel研修 ○情報セキュリティ		

○:デジタル要素、●:マインド・業務改善要素